



CVENDIAN を使用した ビッグ・エンディアン・シス テムとリトル・エンディアン・ システム間の変換

Version 5.1
2006-03-14

CVENDIAN を使用したビッグ・エンディアン・システムとリトル・エンディアン・システム間の変換

Caché Version 5.1 2006-03-14

Copyright © 2006 InterSystems Corporation.

All rights reserved.

このドキュメントは、Sun Microsystems、RenderX Inc.、アドビ システムズ および ワールドワイド・ウェブ・コンソーシアム (www.w3c.org) のツールと情報を使用して、Adobe Portable Document Format (PDF) で作成およびフォーマットされました。主要ドキュメント開発ツールは、InterSystems が構築した Caché と Java を使用した特別目的の XML 処理アプリケーションです。



Caché 製品とロゴは InterSystems Corporation の登録商標です。



Ensemble 製品とロゴは InterSystems Corporation の登録商標です。



InterSystems という名前とロゴは InterSystems Corporation の登録商標です

このドキュメントは、インターシステムズ社(住所: One Memorial Drive, Cambridge, MA 02142)あるいはその子会社が所有する企業秘密および秘密情報を含んでおり、インターシステムズ社の製品を稼動および維持するためにのみ提供される。この発行物のいかなる部分も他の目的のために使用してはならない。また、インターシステムズ社の書面による事前の同意がない限り、本発行物を、いかなる形式、いかなる手段で、その全てまたは一部を、再発行、複製、開示、送付、検索可能なシステムへの保存、あるいは人またはコンピュータ言語への翻訳はしてはならない。

かかるプログラムと関連ドキュメントについて書かれているインターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載されている範囲を除き、ここに記載された本ドキュメントとソフトウェアプログラムの複製、使用、廃棄は禁じられている。インターシステムズ社は、ソフトウェアライセンス契約に記載されている事項以外にかかるソフトウェアプログラムに関する説明と保証をするものではない。さらに、かかるソフトウェアに関する、あるいはかかるソフトウェアの使用から起こるいかなる損失、損害に対するインターシステムズ社の責任は、ソフトウェアライセンス契約にある事項に制限される。

前述は、そのコンピュータソフトウェアの使用およびそれによって起こるインターシステムズ社の責任の範囲、制限に関する一般的な概略である。完全な参照情報は、インターシステムズ社の標準ライセンス契約に記載され、そのコピーは要望によって入手することができる。

インターシステムズ社は、本ドキュメントにある誤りに対する責任を放棄する。また、インターシステムズ社は、独自の裁量にて事前通知なしに、本ドキュメントに記載された製品および実行に対する代替と変更を行う権利を有する。

Caché および InterSystems Caché、Caché SQL、Caché ObjectScript および Caché Object は、インターシステムズ社の商標です。

ここで使われている他の全てのブランドまたは製品名は、各社および各組織の商標または登録商標です。

インターシステムズ社の製品に関するサポートやご質問は、以下にお問い合わせください:

InterSystems ワールドワイド カスタマサポート

Tel: +1 617 621-0700

Fax: +1 617 374-9391

Email: support@InterSystems.com

目次

| | |
|---|---|
| CVENDIAN を使用したビッグ・エンディアン・システムとリトル・エンディアン・システム間の変換.... | |
| 1 | |
| 1 変換プロセス | 1 |
| 2 cvendian 構文 | 2 |
| 2.1 例 | 2 |

CVENDIAN を使用したビッグ・エンディアン・システムとリトル・エンディアン・システム間の変換

Caché には、Caché データベースをビッグ・エンディアン形式からリトル・エンディアン形式に、またはその逆に変換するユーティリティが備わっています。このユーティリティは、cvendian と呼ばれ (convert endian の略)、2 つのタイプのプラットフォーム間でデータベースを移動するときに便利です。

ビッグ・エンディアンのサポート対象プラットフォームは、HP PA-RISC、IBM pSeries、および Sun Sparc で、リトル・エンディアンでは HP Alpha と Intel です。

1 変換プロセス

cvendian は、Windows システムでは `<cache-install-dir>%CacheSys%Bin%cvendian.exe` にあり、OpenVMS および UNIX システムでは Caché システム・マネージャ・ディレクトリにあります。

cvendian は、変換するファイルを持つマシン上、または変換するファイルを使用する予定であるマシンのいずれかで実行可能です。例えば、データベースをリトル・エンディアン・マシンからビッグ・エンディアン・マシンに変換するには、リトル・エンディアン・マシンで変換を実行した後データベースをビッグ・エンディアン・マシンに転送するか、ファイルを最初に転送した後変換します。

注釈: OpenVMS システムで実行するデータベースを変換する場合は、データベースの変換は OpenVMS ターゲット・マシンではなく、ソース・マシン上で実行する必要があります。

データベースを変換するプロセスは、以下のとおりです。

1. ユーティリティはソース・ファイルを変換済みのファイルと置換するため、使用中のデータベース・ファイルのコピーを作成します。
2. 以下の構文を使用して cvendian を実行します。
3. マルチボリューム・データベース・ファイルの変換後、`^LABEL` ユーティリティを使用して、各ボリュームのディレクトリの名前を変更します。これを行うには、Caché ターミナルで、`%SYS` ネームスペースに移動します。Do コマンドで `^LABEL` を呼び出すと、以下を入力するように促されます。

```
USER>zn "%SYS"  
%SYS>Do ^LABEL
```

Enter the name of the directory in which the database is stored. For a multi-volume database, enter the name of the primary volume's directory, even if you want to relabel a secondary volume. For a multi-volume legacy 2K database, you should enter the name of the secondary volume directory if you need to relabel it.

Directory:

2 cvendian 構文

cvendian を実行するには、以下の構文を使用します。

```
cvendian file1 [file2 ... file8]
```

file1 から file8 は変換するファイルで、各ファイルは完全なパス名を含むことができます。file2 から file8 の引数はマルチボリューム・データベース用です。マルチボリューム・データベースを変換する場合、コマンド行ですべてのボリュームを順番に指定する必要があります。

ユーティリティは、以下のアクションを実行します。

- ・ データベースが使用する形式を自動的に検出します。
- ・ 形式情報と他の情報を表示します。
- ・ 変換を実行します。
- ・ 成功、または失敗を示すメッセージを表示します。

マルチボリューム・データベースでは、ファイルの順番が違う場合、またはリストが不完全な場合、ユーティリティは変換を実行せずファイルも変換されません。

2.1 例

ここでは、Windows XP から Solaris Sparc にデータベースを変換すると想定します。Sparc と Intel はデータ表現形式の互換性がないため、リトル・エンディアン形式 (Intel) からビッグ・エンディアン形式 (Sparc) に変換する必要があります。Solaris マシンへの移動前に Windows マシンで cvendian を実行する場合、出力は以下のように表示されます。

```
C:\CacheSys\Bin>cvendian c:\\temp\solarisdb\cache.dat

This database is little-endian.
This database has a block size of 8192 bytes.
This is a BIG database.

This database has 1 volume and 1 map.
The last block in the primary volume is 18176.

Original manager directory is c:\\temp\solarisdb\
No extension volumes.

Done converting c:\\temp\solarisdb\cache.dat to big-endian

C:\CacheSys\Bin>
```

注釈: cvendian 出力文 “This is a BIG database.” は、データベースが Caché の 2 KB ブロックではなく標準の 8 KB ブロックを使用していることを示します。これは、データベースが使用している領域、またはデータベースがビッグ・エンディアン形式を使用しているという意味ではありません。

次に、変換済みのファイルを Solaris マシンに移動します。

